



学薬のひろば



<9月号>

Vo1. 033

7月31日、埼玉の市民プールにおいて女兒が排水溝に吸い込まれて亡くなった事件はその後、全国の学校プールの管理チェック体制に大きな一石を投じると同時に、私たち学校薬剤師の「学校環境衛生の基準」に基づく「水泳プールの管理」における検査、指導助言にも大きな警鐘を鳴らす出来事となりました。

今回の事件後、文部科学省は以前、夏の水泳シーズンを前に、学校に設置されているプールの排水口の安全性を調査した結果、約一割の学校で排水口にふたが固定されておらず危険なことが分かり、改善を促す通知を各教育委員会に出していたとしました。が、事件後の調査で「全国30136校にプールが設置されている公立校中、ふたの固定に不備があるのが185校。福岡県で36校見つかったほか、愛知県でも27校（その後増加）ありました。防止金具に不備があるのは、1238校。千葉県の183校が最多で、東京都（138校）、山口県（115校）が続いた」と報道されてしまいました。また特に、本来独自にプール条例を設けて吸排水口の安全柵の2重化を命じていたことで、全国でも最も厳しいはずの愛知県で27校の不備（条例違反）が見つかったことは重大なことと考えますが皆さんはどう思われるでしょうか。

<引用・・・産経新聞8月8日インターネット版の記事をうけての記事・・・>

条例が有効なのは最初のプール開設の時にチェックできることだと考えられますが、今回の調査結果から明らかのように、運用開始後の不具合については上手く機能していませんでした。罰則規定があるとはいえ、行政の改善命令に従わなかった時に使われるだけであり、不具合をあっただけでは罰金も発生しません。現場は指摘されるまでは安心なわけですから、実際のシバリにはなりにくい。その結果、今回の条例違反27校が生まれました。開設時は吸排水口の二重化をしていたのかもしれませんが、その後清掃や点検補修などの時に蓋をはずしたり金具をはずしたり、何らかの理由で条例の求める安全対策をパアにしたというのでしょうか、きっと。吸排水口が危険な箇所だという認識がなかった、というべきかもしれません。

要するに、いくら法律を用意しても、いくら基準を厳しくしても、守らない所は守らない。人の命を軽視し、安全対策なんか二の次だと思っている人が、日本で一番厳しいプール条例を有する愛知県にもたくさんあるということ。規制のない他の自治体は推して知るべし。実にお寒い状況でしょう。プール管理者だけでなくプール設計施工、許認可などプールに関する人たちがすべてが吸排水口の危険性を認識しなければ、立派な条例や基準も絵に書いた餅。やはり、プールはあぶない、と考えておくべき・・・

上記の記事は条例の運用等についての的はずれな記述もありますが、県レベルで立派な条例を持っている愛知県ぐらいはきちんとしていてほしかったと言われているように感じました。

「学校環境衛生の基準」の「水泳プールの管理」では

【定期検査】 1－(2) 付属施設・設備の管理状況・衛生状態等 で
判定基準 (2)－ア

排水口及び循環水の取り入れ口には、堅固な格子鉄蓋や金網を設けてネジ・ボルト等で固定させる。(蓋の重量のみによる固定は不可) とともに、吸い込み防止金具等を設置すること。また、蓋等を固定する場合には、蓋等の欠損、変形、ボルト等の固定部品の欠落・変形等がないか確認すること。

【日常点検】 プール水管理 (2)

入泳前には、必ず排水口及び循環水の取り入れ口の堅固な格子鉄蓋や金網が正常な位置にネジ・ボルト等で固定(蓋の重量のみによる固定は不可)されている等、安全であることを確認すること。また、柵の状態についても確認すること。

とされていますし、

「愛知県プール条例」の別表第1 (第3条関係) ではさらに具体的に、

⑤ 排水設備は、容易に排水できる能力を有し、排水口には遊泳者等の吸い込みを防止するため、ネジ・ボルト等で固定された堅固な網、格子等を二重に設けること。

⑦ーニ

プール水面下の循環水の取り入れ口には遊泳者等の吸い込みを防止するため、ネジ・ボルト等で固定された堅固な網、格子等が二重に設けられていること。

と書かれて二重の安全策を要求しています。

私たち学校薬剤師はこうした基準、条例等をよく理解するとともに、不備等があれば今回の事故のように児童生徒の安全が脅かされる場合もあるということを心に刻み、基準に沿った検査及びその指導助言等に当たっていきたいと考えます。

なお、最近の学校のプール関連では、ろ過器の作動時間が「周りに迷惑かもしれない・・・？」

との理由 (いいわけ?) からどんどん短くタイマーがセットされる傾向が見られるようです。

1日4ターン以上という基準があるわけですから自己都合でなく、できるだけ基準に沿うよう周辺の地域との話し合いを持つよう心がけたいものです。